

接触わずか10分で  
99.9%コロナを  
撃退!!

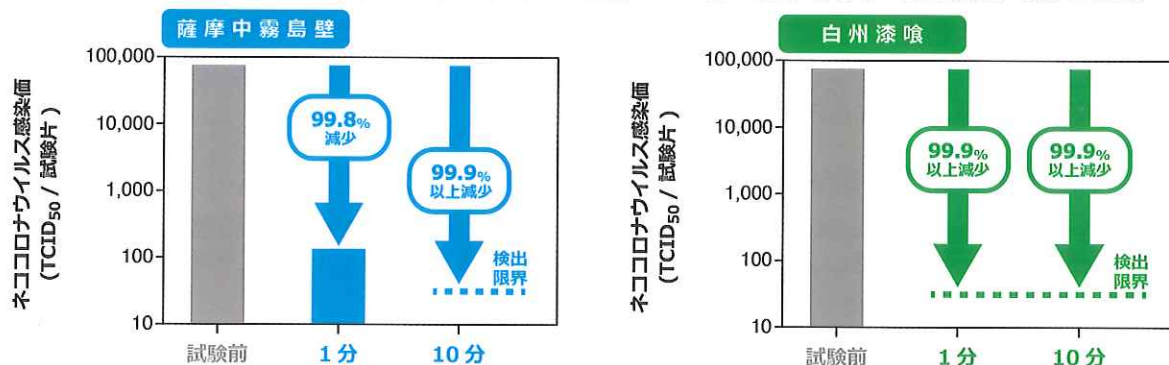


## シラス壁における抗ウイルス作用を実証

当社は、独立行政法人国立高等専門学校機構 都城工業高等専門学校と、シラス壁のコロナウイルスに対する不活化試験を共同で実施し、接触わずか10分で99.9%以上の不活化効果を確認いたしました。本研究成果については特許出願中であり、今後、壁材だけでなく、様々な応用製品への活用も期待されます。

### コロナウイルスに対する抗ウイルス性能試験結果

当社の主力商品である『薩摩中霧島壁』と『白洲漆喰』によるコロナウイルス不活化試験を実施。いずれの壁材についても接触わずか10分でウイルス量を99.9%以上減少させることを確認いたしました。

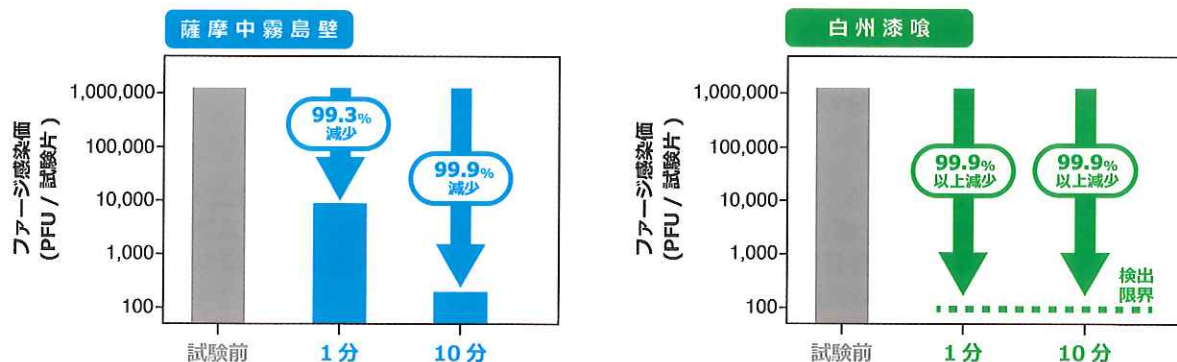


- 試験ウイルス: ネココロナウイルス※<sup>1</sup>(WSU 79-1683)
- ウイルス量測定方法: TCID<sub>50</sub> (Tissue Culture Infectious Dose 50)
- 検出限界: 32 TCID<sub>50</sub>/試験片

※<sup>1</sup> 新型コロナウイルス(SARS-CoV2)と同じコロナウイルス科に分類され、類似した構造的特徴を持つウイルスです(エンベロープ型)。このことから新型コロナウイルスに対しても同様の抗ウイルス効果を発揮すると想定されます。

### 抗ウイルス性能試験結果 (JIS R 1756準拠)

多くの動物感染性ウイルスの代替として使用される細菌感染性ウイルスを用いた試験においても、接触10分で99.9%以上のウイルス量減少を確認しております。



- 試験ウイルス: バクテリオファージQβ※<sup>2</sup>(NBRC20012)
- ウイルス量測定方法: プラーク法
- 検出限界: 100 PFU/試験片

※<sup>2</sup> 一般に消毒薬等に対する耐性が高いとされるウイルスに分類されます(ノンエンベロープ型)。そのためバクテリオファージQβを用いる試験は、ウイルス全般への効果の指標となります。

\* 試験方法については裏面 補足1. をご参照ください。

本資料は、独立行政法人国立高等専門学校機構 都城工業高等専門学校 野口太郎准教授、野口太輔教授との共同研究で得られたデータに基づき作成しています。